大磯丘陵･高麗山の自然林を歩く（神奈川県大磯町）

～ 早春の大磯丘陵から湘南の展望をたのしむ ～

実施日　平成２４年３月１４日（水）
コース　西船橋駅南口(7:00)－京葉道(原木)～首都高～東名～厚木小田原道～大磯IC－化粧坂公園(10:30)～高来神社～高麗山～浅間山～湘南平(12:00～12:50)～善兵衛池～稲荷神社～藤村旧宅～鴫立庵～大磯中学脇(15:30)－大磯IC～厚木小田原道～東名～首都高～京葉道(原木)－西船橋駅南口

◆大磯町
東海道の大磯宿は品川から８番目の宿場町。
史跡「化粧(けわい)坂の一里塚」は旅人の休息の場となり、旅程の目安ともなった。
高さ約３ｍ程の上に海側にエノキを山側にセンダンを植えた。
明治時代、照ケ崎海岸に日本最初の海水浴場として大磯海水浴場が開設された。また、政界財界等各界の名士の邸宅が建ち並びその数は 150 戸にも及んだ。

◆高来神社（たかくじんじゃ、高麗権現）
縁起によると垂仁天皇の御代の創建とつたえ、神功皇后、応神天皇を祭神とする。江戸時代までは高麗寺に属し、明治元年の神仏分離により高麗神社となり、さらに明治 30 年に高来神社に改称される。

◆高麗と若光（こまとじゃくこう）
昔から日本と朝鮮の文化交流は深く、相模国をはじめ東国七州の高麗人を武蔵国に移して高麗郡をおいたと「続日本記」に書かれている。奈良時代のころ高句麗は唐・新羅に滅ぼされ、日本に難を逃れた人も多く、その中に高句麗王族のひとり高麗若光もいた。若光は一族をつれてこの山のふもとの化粧坂あたりに住み、この地に高度の文化をもたらした。高麗若光と高句麗の人たちが住んでいたことから、この地が高麗と呼ばれるようになった。

◆シイニッケイ（高来神社境内）　～大磯町指定天然記念物～
スダジイ（推定 300 年以上）の幹上部に着根したヤブニッケイ（推定 150 年前後）がスダジイと共存している。

◆大磯高麗山の自然林　～神奈川県指定天然記念物～
大磯丘陵の東端に位置する高麗山は、標高わずか 150m余にすぎないが、相模川の広い沖積平野に接し、特徴的な景観で古くから親しまれている。
この南面はシイやタブを主とした常緑広葉樹に代表される沿海性の自然林で覆われている。山腹斜面は土壌が浅く、アラカシやウラジロガシを多く混在したスダジイ林が発達し、一方谷部のように土壌が厚くて適湿、富養な土地ではタブノキ、イロハモミジ等が高木層を形成するタブ林が見られる。いずれの林内にも、ネズミモチ、ヤブツバキ、アオキ等の常緑樹が豊富に生育し、また分布北限域となるモクレイシは注目される。
県内にわずかに残されたヤブツバキクラス域の自然林としては林分面積が十分確保され、自然度も高い良質な森林として貴重であるばかりか、東海道線沿いに見事な常

緑広葉樹林が展望できるのも珍しい。学術的な立場からも、郷土の森としても、さらに景観的な意味からも、指定天然記念物として保護するものである。（県教育委員会）この貴重な植生から「21 紀に残したい日本の自然 100 選」に選定された。

◆モクレイシ（ニシキギ科モクレイシ属、木荔枝）

常緑小高木、葉は十字対生、卵形で全縁、先は鈍頭で時に微凹端、基部は鋭尖形で葉柄に連続する。雌雄異株、3 月頃に淡緑黄色の小花を多数つける。果実は楕円形の蒴果で二裂して冬に熟し、赤い種子がのぞく。分布は、九州南部から台湾辺りの沿海地の林中に自生する。神奈川県のこの辺りは北限で、隔離分布している。

名前の由来

ライチ(レイシ) ⇒ 実がデコボコ ⇒ ツル(蔓)レイシ(ニガウリ) ⇒ 種子が赤い ⇒ モク(木)レイシ

◆高麗山（こまやま）（標高 168m）

大堂、高来神社の上宮跡で、社の代わりとされる石組みがある。

◆八俵山（はっぴょうやま、標高 160m）

八俵山・大堂・東天照の高麗山の三峰のうち、最も西側に位置する峰で、“八俵”は仏教用語の八表（隅の意味）から転じたと考えられる。古くは毘沙門堂がここに建てられていた、との記録がある。

歌川広重　東海道五十三次　平塚宿より高麗山

◆浅間山（せんげんやま、一等三角点　標高 181.2m）

尾根筋には彼岸花の群生地があり、ミズキ、ヤマグワ、エノキ、ハリギリが眼にとまる。特にエノキの巨木が多い。

◆湘南平（標高 179m）

千畳敷といわれる広い平坦地。テレビ塔、展望台からの眺望は素晴らしく、富士山から箱根、丹沢、三浦半島、さらに房総半島、伊豆大島まで一望のもと。

◆善兵衛池

湘南平の南麓は水が乏しく荒れた山田であった。江戸時代（文化・文政年間）、善人善兵衛は困窮を見かねて私財を投じて用水池を作り、良田にすることが出来た。

◆稲荷神社の樹林　～大磯町指定天然記念物～

狭い境内にはタブノキ、ヤブニッケイ、ムクノキ、ヤブツバキなど大小数十本の樹木が自生している。特に樹齢 300 年以上のタブノキ２株は、玉瘤状の地表根を広い範囲に露出し独特な様相を呈している。住宅地にあるが人手による干渉が少なく、今なおこの地本来の自然植生が残されている。

◆島崎藤村旧宅

昭和 16 年、左義長を見に来磯した藤村が、この地を気に入り 71 歳で永眠するまで２年余を過ごした旧宅。

◆鴫立庵（しぎたつあん）

落柿舎（京都・嵯峨野）、無名庵（滋賀・膳所(ぜぜ)）とともに日本三大俳諧道場。西行法師の歌（こころなき身にもあわれは知られけり鴫立沢の秋の夕暮）で名高い鴫立沢に、江戸時代（寛文年間）に小田原の崇雪が草庵を結んだのが始まり。

（作成：野村昭夫）